

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分
 【発行日】平成 18 年 12 月 21 日 (2006.12.21)

【公開番号】特開 2005-291117 (P2005-291117A)
 【公開日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-041
 【出願番号】特願 2004-108579 (P2004-108579)
 【国際特許分類】

F 0 1 L 13/00 (2006.01)

【F I】

F 0 1 L 13/00 3 0 1 L

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 11 月 1 日 (2006.11.1)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 7】

次に、図 7 は、リフト量を 0 にすべき運転状況下を示している。このとき、油圧回路にて低速用油圧室 2 2 i の油圧が高速用油圧室 2 2 h の油圧よりさらに高くされ、ベーン 2 8 c とともに揺動カム 2 4 , 2 6 が同図においてさらに左回りに回動する。これにより、入力部 2 2 のローラ 2 2 f と揺動カム 2 4 , 2 6 のノーズ 2 4 d , 2 6 d との位相差が最少になるため、吸気カム 6 a のベース円部分が、仲介駆動機構 2 0 におけるローラ 2 2 f に接触しているとき、揺動カム 2 4 , 2 6 のノーズ 2 4 d , 2 6 d はロッカーアーム 4 のローラ 4 a には接触しておらず、ノーズ 2 4 d , 2 6 d から大きく離れたベース円部分が接触している。従って、吸気カム 6 a のノーズ 6 b がローラ 2 2 f を押し下げても、ロッカーアーム 4 のローラ 4 a はノーズ 2 4 d , 2 6 d に設けられた湾曲状のカム面 2 4 e , 2 6 e に接触することなくベース円部分に接触した状態を継続する。このことにより、ロッカーアーム 4 は基端部 4 c を中心に揺動することがなくなり、ロッカーアーム 4 の先端部 4 d によるステムエンド 2 c の押し下げ量、すなわちリフト量 L は 0 となる。